

◇編集後記◇

副編集委員長を担当させていただいて2年が経過しました。編集後記において既に何人もの方が心情を吐露されていますが、担当論文の審査を行うたびにさまざまな思いが胸中に去来します。一査読者の立場では論文採否の判断は編集委員会に委ねることになりますので、自分の科学者としての良心に従って意見を述べればそれで十分ですが、その論文を担当する編集委員は採否まで判断しなくてはなりません。ひとつひとつの論文には著者の思いがこめられており、特に国内からの投稿論文では著者を身近に感じられるだけに日々責任の大きさを噛みしめています。会員の皆様もご承知のとおり、投稿された論文は隔週で開催される編集小委員会において一度評価され、そこを通過した論文が通常2名の専門家により査読されます。したがって、リジェクトされずに査読コメントがもどされた場合は、きちんとコメントに答えて論文を修正すれば、かなりの確率で採択されます。しかし、査読者のコメントの意図を十分理解できないまま修正したように思われる場合もあり、そのような論文を採択できないのはとても辛く感じます。多様な背景をもつ会員から構成される本学会は、投稿者が論文修正について相談できる人が身近にいない場合の受け皿を用意できないか、と思ったりもします。このことは編集委員や査読し

て下さった先生との間でも時々話題になりますが、査読者の匿名性をゆるがす方向では議論しにくいことに加え、日付の替わった深夜や休日にメールを出してもすぐに返事がくるほど働いている会員に、これ以上のボランティアを期待するのもむずかしい状況です。我が身に当てはめて考えれば、一番忙しい職責をリタイアしたあとの、頭は働きまだ新しい学問に触れていたい時期に、学会の名の下にそんな仕事をするのもやりがいがあるので、と思っています。会員の投稿への敷居を下げる道でもあり、よいお知恵がありましたら是非お寄せ下さい。

和文・英文を問わず論文を書くということは本当にたいへんなことです。英文論文の場合は、母語でない言語を扱わなければならない困難さが付け加わります。しかし、産衛誌・JOHに掲載された論文はPubMedに収載され、世界中から検索可能な形で永遠の生命を得ます。JOHについては投稿論文のリジェクト率が7割を超えますが、質が高いとはいえない海外からの論文投稿が見かけの数値を押し上げている側面があります。これまで投稿したことのない会員の皆様におかれましては、学会での口演・ポスター発表に留まらず論文作成に挑戦して下さいますよう、お待ちしております。

(上島通浩)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：川上憲人（東京大）

副委員長：荒木田美香子（国際医療福祉大）、井上和男（帝京大）、上島通浩（名古屋市立大）、
車谷典男（奈良医大）、堤 明純（産業医大）、福島哲仁（福島医大）、森本泰夫（産業医大）

有澤孝吉（徳島大）、石竹達也（久留米大）、市場正良（佐賀大）、小笹晃太郎（放射線影響研究所）、掛本知里（東京女子医大）、川口陽子（東京医歯大）、熊谷信二（大阪府公衛研）、黒沢洋一（鳥取大）、河野公一（大阪医大）、酒井一博（労働科学研）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（独法労働安全衛生総研）、塩飽邦憲（島根大）、菅沼成文（高知大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埴田和史（滋賀医大）、竹内 亨（鹿児島大）、田中昭代（九州大）、谷川 武（愛媛大）、土井由利子（国立保健医療科学院）、中尾睦宏（帝京大）、橋本英樹（東京大）、馬場園明（九州大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、丸山総一郎（神戸親和女子大）、三木明子（筑波大）、村田勝敬（秋田大）、森 満（札幌医大）、森河裕子（金沢医大）、八幡勝也（産業医大）、吉田貴彦（旭川医大）、若林一郎（兵庫医大）、渡辺博且（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番